

平成30年度 校内研究推進計画

研究部

I 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを生み出す授業改善の実践」

～ 生徒と教職員にとって効果的かつ効率的な日吉モデルの構築を目指して ～ (3カ年計画)

II 研究主題設定の理由

平成28年度・29年度は、「自ら学ぶ生徒の育成」という主題のもと、教職員の授業力向上のために学び合い学習の研修の実施や各教科で研究授業を行ってきた。また全国学力・学習状況調査の結果から、基礎学力の定着を目指した授業改善を行ってきた。平成28・29年度の全国学力・学習状況調査からわかった本校の強み・弱みは、

- ① 国語Aでは「書くこと」で満足できる結果が得られ、「書くこと」については、“書く力”を伸ばすために教科で授業の工夫を行うことや、毎日表現の時間を設けることで“書く力”の向上ができた。
- ② 充実した補充学習の実施や、小学校と連携した基礎計算ワークシートの作成・実施から、計算力などの基礎学力向上ができた。
- ③ こころ豊かな学級経営を基盤とした、言語活動の充実を図る生徒相互の学び合い学習を展開することができた。

そこで、課題としては以下のことが挙げられる。

- ① 国語B・数学Bの結果から読み取れる、長い問題文を読み込むことや記述問題で考え方を説明する力の向上の必要性。
- ② 生徒が主体的・対話的な学びにつながる課題を取り入れた授業の実践。
- ③ 学習習慣の定着に向けた授業のユニバーサルデザイン化。
- ④ RG-PDCAサイクルによる授業改善の定着。

以上のことを踏まえて、授業改善への基盤が整いつつあるいま、RG-PDCAサイクルで生徒の力がさらに伸びたことが確認できるような、生徒の主体的・対話的な深い学びにつながる課題の工夫やユニバーサルデザインの視点による授業改善が求められている。これまでの研究によって基礎学力の向上が一定の基準まで達成されていることも踏まえて、弱みについても改善していきたい。

また、近年教職員の働き方改革がうたわれるなかで、ただ改善に向けて教職員の負担が増えることは避けていきたい。そのため、副題には“効率的な”という内容を含み、教職員が一体となって取り組むことができる“日吉モデル”の構築を目指す。若手の教職員も増加する中で、学習規律の統一なども進めるべきである。

昨年、一昨年度の取り組みを継続することと、これからの課題にも踏み込むためにも『主体的・対話的で深い学びを生み出す授業改善の実践』という主題に設定した。

III 研究の仮説

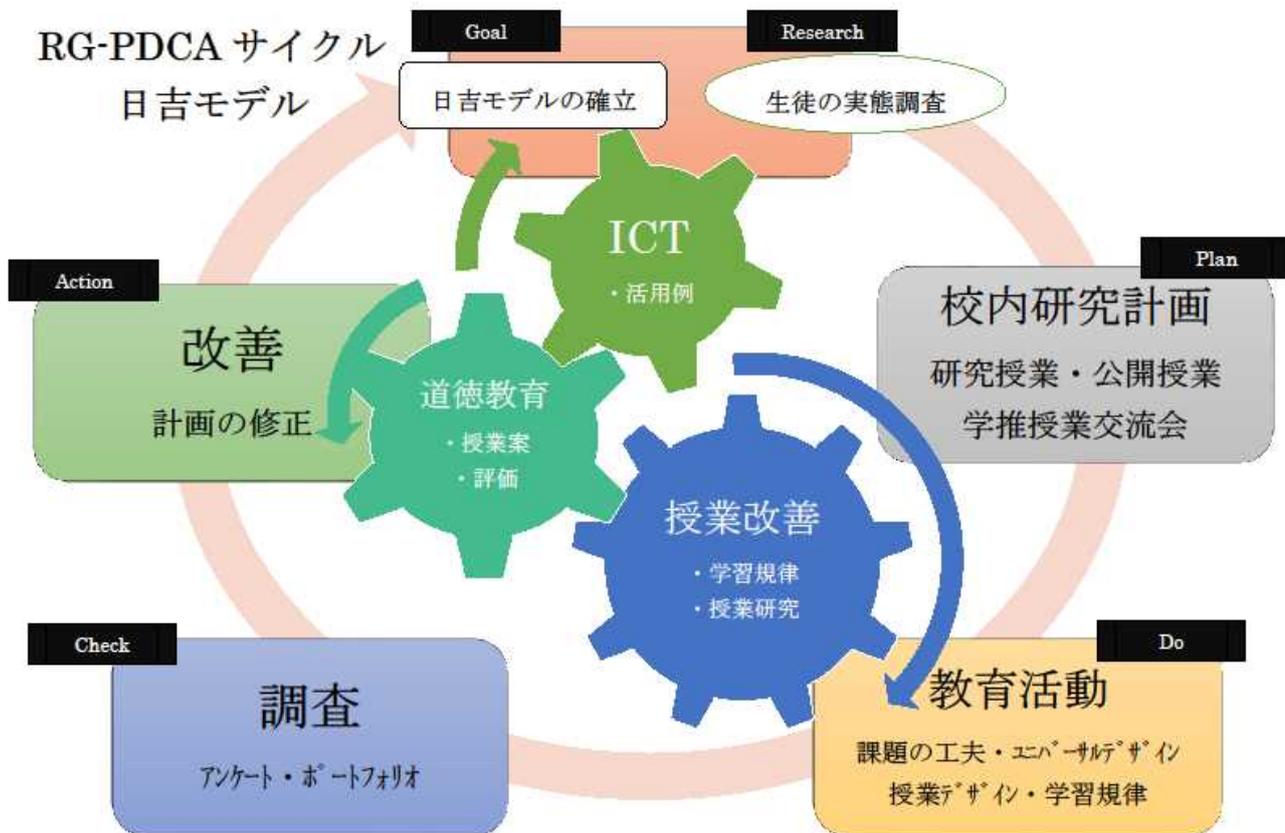
<研究仮説1>

効果的かつ効率的な日吉モデルを構築する段階で、学習規律の定着や授業のユニバーサルデザイン化を行うことによって、生徒が学びを深める態度を養うことができる。

<研究仮説2>

授業改善の段階で、学習意欲を高める課題の工夫や授業デザインの作成を行うことによって、生徒が主体的・対話的に課題を解決する力を高めることができる。

IV 研究の構想図

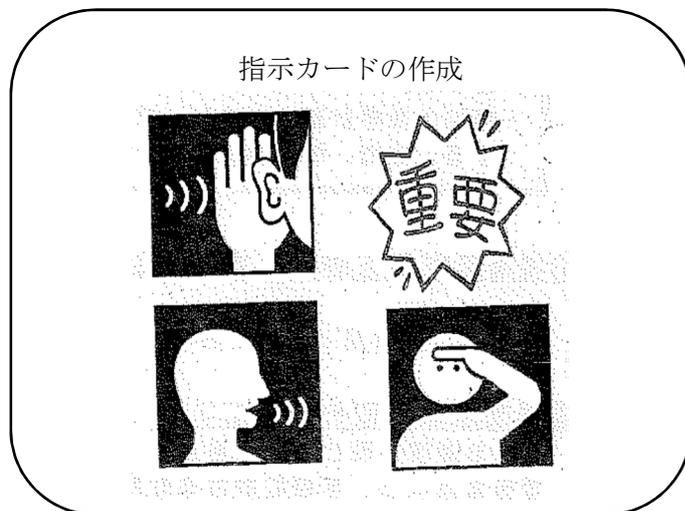
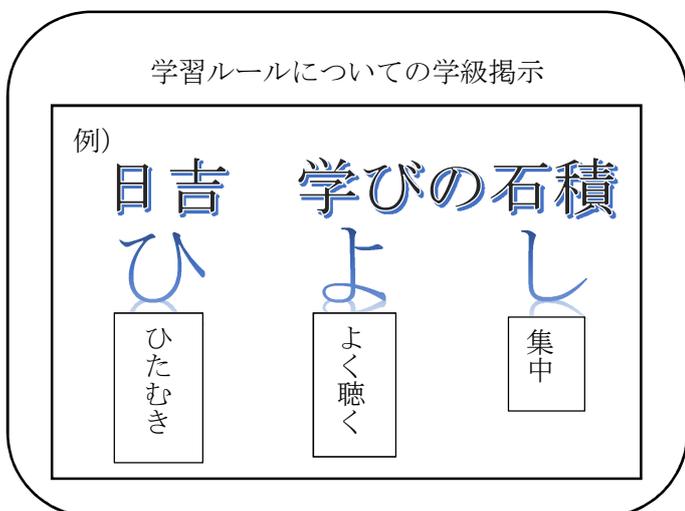


V 研究の方法 (1年目で特に行う研究方法)

○生徒の実態調査・・・1学期の生徒の意識調査、各学期末の意識調査。

○学習規律の定着に向けた取り組み

- ・ビギン・オン・チャイム運動・・・チャイムが鳴る前に生徒が授業準備をして着席し、チャイムと同時に授業開始する取り組み。
- ・学習ルールづくり・・・全校で統一した学習規律をつくり、学校全体で徹底していく取り組み。
- ・授業のユニバーサルデザイン化・・・授業で教職員が使用する指示カードを作成し、特別支援にも配慮された授業を考えていく取り組み。



○生徒・教師向けの授業改善に向けたガイドラインの作成

○補充学習の継続

VI 学校全体の共通理解事項（課題整理票）

校内研究課題整理表

2018/4/12

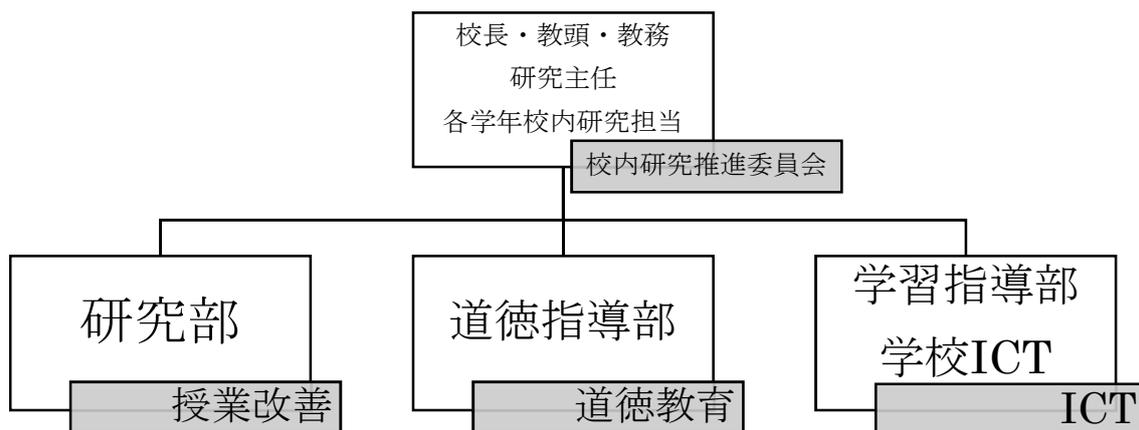
1/3カ年

研究部

課題		具体策	担当	進捗状況
授業改善	主体的・対話的な深い学び	教室環境	全学年の机配置を市松模様にする。	各学年
			グループ学習の促進のため、学習机の高さをすべて統一する。	各学年
			机を並べる場所に2色でマークをつける。	各学年
		授業の進め方・方法	ロッカーを整備し、カバン・荷物の置き場所を拡大する。	管理職・事務
			年度当初に、生徒向けのグループ学習の心得を配布する。	研究部
			教師向けに学び合い学習を行うためのポイントをまとめた用紙を配布する。	研究部
		アンケート実施	家庭・地域に「主体的・対話的で深い学び」についての説明をしていく。	研究部・管理職
			1学期始めの学活で、生徒向けに学習についてのアンケートを実施する。	研究部
		研究授業	授業デザイン	各学期末の学活で、学習に対する意欲などの振り返りアンケートの実施。
	授業デザインの元版を作成する。			研究部
	講師依頼		全教員が授業デザインを作成し、授業公開を行う。	校内研主任 全教員
	研究成果	校内研究の主題に沿った評価をいただける講師を依頼し、授業研究会で講評していただく。	校内研主任 管理職	
	学習規律	学習ルール	1年間の研究成果を3月の職員会議に冊子で報告を行う。	研究部 管理職
		学習ルール	全学年に学習ルールの掲示物を貼り、生徒指導・生徒会と連携して徹底していく。	学年 生徒会 生徒指導
		ビギン・オン・チャイム	『チャイムが鳴る前に着席する』というルールの指導を全教員で徹底していく。	生徒指導 生徒会
		エバーサルデザイン	全教員に「書く・聴く・見る・重要」の指示カードを配って活用をしていく。	研究部
		学習のめあて	授業のはじめに「学習のめあて」を掲示し、おわりに「振り返り」をさせる。	研究部
	補充学習	夏休みの補習	3年生対象の夏休み補習を実施する。	各教科
テスト前補充学習		各学年でテスト前の補充教室を実施する。	各学年	
道徳教育	教育計画	年間計画	各学年で年間計画を作成し、授業の実施について確認をしていく。	道徳教育部
		授業案	授業の簡易的な本時案を作成し、3学年の道徳授業案をデータ管理していく。	道徳教育部
	評価方法	評価の文章表記	文章表記による評価の実施に向けて、文例を作成する。	道徳教育部
		評価シート	評価文章が作成できるシステムを作成する。	ICT部
ICT	教材開発	デジタル教科書	教師・生徒の活用を促進していく。	全教員
		ICT活用事例	日吉中でのICT活用実践を集計し、実践例をまとめたデータを作成する。	ICT部
	設備投資	タブレット端末の追加	3カ年かけて、タブレット端末の導入数を増やしていく。	管理職
			ICT活用に関する研修の参加を促進していく。	ICT部

※この表については、内容の追加・訂正・削除を随時検討して実行する。

VII 研究の組織



VIII 研究計画

		全体	各部（研究部・道徳・ICTほか）			
4月	11日（水） ※	平成30年度校内研究推進計画（案）の提案 研究推進委員会	4月中	学習規律に関する学級掲示の作成 指示カード作成		
5月	7日（月） 9日（水）	教科主任会 学推総会	※	アクティブラーニングの書籍購入 ポートフォリオ原案作成 授業デザイン原案作成・提案		
6月	20日（水）	学推専門部会				
7月	※	研究推進委員会				
8月	22日（水） ※	学推夏季選択研修会 （特別支援研修会）				
9月		<table border="0"> <tr> <td rowspan="3"> 学推 専門部会 </td> <td rowspan="3"> 校内授業研究会 講習会 授業デザイン作 </td> </tr> </table>	学推 専門部会	校内授業研究会 講習会 授業デザイン作	※	校内研究会の準備 道徳評価方法について
学推 専門部会	校内授業研究会 講習会 授業デザイン作					
		11月				
12月	※	研究推進委員会				
1月	}	校内授業研究会・講習会 授業デザイン作成	※	年間のまとめ ICT実践例のまとめ		
2月		研究推進委員会				
3月		2/13 学推全体研修会	※	1年間の振り返りの作成 次年度の研究推進計画の提案準備		

※本年度は「学びの質を高める学校改善事業」に関わる実践研究校となります。
年1回の公開授業がありますが、学推授業交流会と兼ねる予定をしています。